第27号
2011.10月

# かざぐるま

発行　城里町社会福祉協議会　☎ 029-288-7013　FAX 029-288-7021　ホームページ http://www.shirosato-syakyo.com
編集　広報ボランティアグループ

## 城里町子どもヘルパー事業

高齢者のためのボランティア活動を行う県事業「いばらき子どもヘルパー」の本年度モデル地区に指定された我が町で、石塚小学校4～6年生児童による活動が7月から始まりました。事業の目的は高齢者宅や施設の訪問、交流会などを通してお互いの絆を深め合うところにあります。

取材をした日は、七会保健福祉センターの祭りの日で、地域のお年寄りと、子どもヘルパーに登録した石塚小の那珂西地区の19名が参加しました。センターのホールは提灯などできれいに飾り付けられ神輿なども用意されており、またサポート隊として2010会※の面々もスタンバイしていました。

午後2時の開会式のあとさっそく高齢者と子ども達とで神輿を担ぎホール内を練り歩きました。

次は子ども達が習いたてのリコーダーを披露し、大きな拍手をもらっていました。

3つ目には高齢者のペットボトルボーリングがあり、上手に出来た人には賞品も配られました。さらには2010会の方々と子ども達によるソーラン踊り、サンバの踊りが会場をにぎやかにしてくれました。

祭りの最後には、子ども達からお手紙と肩たたきのプレゼント！この素晴らしいサービスに皆大喜び、満面の笑みを浮かべていました。

子どもヘルパー事業に協力している2010会代表の住谷里子さんは「毎月最終土曜日に開催される遊びの会『なかさん会』が基本になっています。子ども達の交流が少なくなった今、地域の活性化と交流を目指し、子どもヘルパーを通して人を思いやる心を育てていきたい」と語ってくれました。

子どもヘルパー事業のこれからの活躍を期待するとともに、我々もバックアップを惜しまず育てていきたいと思いました。

※子育て支援を行っており、今年度は「子どもヘルパー事業」への協力をしている

## ●子どもヘルパーを通して●

**前田慎太郎（4年）** こどもヘルパー

### 子どもヘルパーで…

8月5日に子どもヘルパーで90代のおばあちゃんのお家にいきました。ぼくたちは、リコーダーでエーデルワイスを演奏しました。おばあちゃんからは戦争時代の話を聞きました。帰りに「元気をもらったよ」と言われてうれしかったです。

**片野　胡桃（くるみ）（5年）** こどもヘルパー

### うどん作り交流会

夏休みに高齢者サロン「なかさん会」の人たちとうどん作り交流会で、おばあちゃん達のうどん作りのスゴ技を見ることができました。ゲームをしたりして知り合いのおばあちゃんが増えてうれしかったです。笑顔であふれた一日でした。

**塙　太稀（たいき）（6年）** こどもヘルパー

### 高齢者施設訪問

夏休みに子どもヘルパーの全員で七会の施設を訪問してお年寄りとゲームをしたり、踊りをしたり楽しく過ごしました。肩たたきをしてあげたらとても喜んでくれました。これからもお年寄りの方の役に立てるようにがんばりたいです。

**皆川みどり（73歳）**

### 元気が出た暑中見舞い

7月の終わりごろに子どもヘルパーの森島愛さんから暑中見舞いが届きました。ハガキには「暑いので身体に気を付けてください」と書いてありとても嬉しくて元気がでました。その後、8月8日の公民館での交流会で愛さんに会えて握手ができてもっと元気になりました。ありがとうね。

**桐原さつき（88歳）**

### 肩たたきありがとう

7月25日に子どもヘルパーの3人とボランティアの方が訪問してくれました。

普段は一人暮らしなので子どもヘルパーの皆さんと家族のことや昔話がたくさんできて嬉しかったです。柔らかな手で肩もみをしてくれたり笛の演奏をしてくれて涙の出るほど嬉しかったです。また来てください。

**松﨑　幸子（57歳）** 2010会

### 子どもヘルパーと共に

ボランティアとして子どもヘルパー事業に参加しました。子ども達は高齢者との触れ合いで喜びを実感し、活動する毎に意欲的に交流できるようになりました。

今後の高齢者との触れ合い活動でも子ども達をサポートし、成長する姿を見守っていきたいと思います。

## 猛暑に負けず励む
### —23年度地域介護ヘルパー養成講座—

猛暑の夏、平成23年度の地域介護ヘルパー養成講座が行われました。

今回は町内の中学生19名、一般2名が受講し、7月23日（土）の開講式から、8月、9月にわたって10回の講座が組まれました。「福祉の制度」や「医学の基礎知識」「実習」など、慣れない専門用語にとまどいながらも、皆さん熱心に受講していました。

なお閉講式は9月3日（土）に行われる予定でしたが、台風のため中止となり、それぞれの中学校で日時を改めて行われ、修了証書の授与がありました。

**◆受講生の声**

**常北中学1年　浅野恵萌（めぐも）**

私は人の役に立ちたくて、今回この講座を受けました。そして、この講座の中で思った事があります。それは、お年寄りや、体が不自由な人の介護をする事についてや、ヘルパーの職員についてです。

まず、介護については難しい事もありました。それでも何度も他の人を見ていたら、理解する事が出来ました。

次はヘルパーの職員についてです。私は本格的な仕事を見ていて、ちょっと私にとって抵抗のある仕事があったけれど、職員の人は何の抵抗もなくやっていて、すごいなぁと思いました。

今回この講座を受けて思った事は、たくさんの知識と経験が必要なんだなぁと実感しました。

普通救命の講習

# 城里町常北女性会と支援センター「つくし」

城里町常北女性会は、会員数約200名で、興野芳恵会長を中心にいろいろなボランティア活動をしています。

役員会で常北保健センター内の支援センター「つくし」で、私達にお手伝いの出来る作業はないだろうかとの話し合いがもたれました。そして平成22年より通所生と同じ部屋で作業をすることになりました。女性会の各支部ごとにローティーションを組み、月1回2・3名で9時から12時まで作業をしています。

つくしのイベントで、販売する品物・アクリル毛糸のモップ作り、カレンダー作り、時には、レッテル貼りをすることもあります。

季節に依っては農作業の草取り、球根植え、堆肥づくり等の作業もあります。

又急ぎの仕事が入った時は、すぐに出られる会員に声をかけ、2・3日続けて作業することもあります。通所生の人達も、クッキー作り、農作業、配食サービス、紙すき、園芸作業をしています。

最初は作業に少し不安もありました。

現在では、作業にも慣れ、通所生の人達と挨拶をかわしたり、会話もはずみ、楽しくボランティアをしています。会員も今度は何を作るのだろうかと期待をしながら、支援センター「つくし」の製品づくりを楽しんでいます。

そして指導員さん方の通所生に対するやさしい応待の仕方、話し方に感動しました。女性会の会員もこれから出来る限り、支援センター「つくし」のボランティアを続けたいと話しています。

アイデア豊かな物づくりに会員も良い勉強をさせて戴いております。

## つくしの四季 ㉑

早くも2011年も後半に入り、段々と秋が深まってきました。

この五ヶ月の間にも、様々な行事に参加してきました。

まず、8月、水戸市森林公園入り口にある与三郎庵にてつくし製品の販売がありました。

子供から大人まで幅広いお客さんが来てくれて、クッキーをはじめ布ぞうり、アクリルたわし、はがき、メッセージカードなどのつくしオリジナル商品の他、アトラクションとして輪投げを用意しました。

みなさん投げ方にもそれぞれ特徴があり、とても上手でした。世代ごとに投げる距離を変えて難しくしたり、輪投げのポールが階段状に奥に行けばいくほど高くなっていて易しいので、手前側を高くし、難しくなるようにしました。その結果、人から人へ話が広がりたくさんの人が楽しんでいってくれました。

それから9月には毎年恒例の宿泊研修に行って来ました。今年は大子方面で県内の旅行は3度目となります。

一日目は、栃木県の大田原市にある那珂川水遊園にいきました。そこは川の生物を中心とした水族館で、ザリガニやカメ、ニジマス、絶滅危惧種とされているメダカ、そして養殖で有名なトラフグがいました。

他にはアマゾンゾーンもあり、肉食の魚ピラニアやカンディル、巨大ナマズなど日本では見ることの出来ないものばかりで、動物では世界最大のネズミといわれているカピバラ（体長約1.5m）もいました。敷地も広く数多くの花も咲いているので、子供だけでなく大人でも楽しめること間違いなしです。

二日目は常陸太田市にあるぶどう園に行きました。さまざまな品種があり、それぞれに味も微妙に異なり、酸味が少し強いものや甘みの強いもの、味覚の新たな発見ができました。

こうして駆け足で話してきましたが、茨城県にも隠されたままだまだ知らない魅力がたくさんあります。これからは紅葉の時期になりますが、ますます注目が集まることでしょう。（加藤直）

# 祝 結婚50年おめでとうございます
## 共に寄り添い歩む

金婚式を迎えられた皆様がご結婚された昭和36年は、大相撲がカラーテレビ放映され、“巨人・大鵬・卵焼き”“地球は青かった”等の流行語も生まれました。また、今年の東日本大震災で人々の希望の歌の一つになった“上を向いて歩こう”も、この年の流行歌です。これからも、温かい笑顔で末長くお幸せであります様に。

**井坂　爲雄・幸子 夫妻**
**（常北・石塚）**

山あり谷ありの50年でしたが、家族や地域の皆様に支えられ、金婚式を迎えることができ感謝しております。

**大畠　義次・ヒロ子 夫妻**
**（常北・石塚）**

金婚式を迎え、こんな嬉しい事はありません。お互いに助け合い一日一日を大切に、想い出多い人生を送りたいと思います。

**小林　宏・好子 夫妻**
**（常北・石塚）**

苦楽を共に歩んだ50年。二人共健康で金婚式を迎えられ、最高の幸せです。今後も絆と健康を大切に一日一日を過ごします。

**渡邊　伸典・洋子 夫妻**
**（常北・石塚）**

健康で迎えられた金婚式。支えてくれた家族や多くの人達に感謝し、思い出をかみしめながら生活したい。

**袴塚　友次・俊子 夫妻**
**（常北・増井）**

家族や周りの皆様に支えられ、金婚式を迎える事ができ、感謝申し上げます。これからの日々、穏やかに余生を全うしたいと思います。

**山口　敏夫・貞子 夫妻**
**（常北・増井）**

金婚の賀を迎え、50年の歳月が過ぎ去った重みに感動しています。今後、末永く、健康で楽しく暮らしたいと思います。

**冨永　昇・君江 夫妻**
**（常北・磯野）**

若い頃は、農業に縁が無かった2人ですが、皆様に支えられ、なんとか50年やってきましたが、主人は病に倒れ今は入院しています。それでも一度しかない金婚式に応募させていただきました。ありがとうございました。

**軍司　資農生・京子 夫妻**
**（常北・小坂）**

50年を経て、金婚式を迎えるに至りました。皆様に支えられ、今日までやってこられたことに心から感謝いたします。

**軍司　光男・清子 夫妻**
**（常北・小坂）**

この度、金婚式を迎えることができ、最高の幸せです。共に歩んだ50年、色々な事がありましたが、皆様のあたたかい支えがあったからこそ乗り越えられ、今日があると信じ、深く感謝します。

**田口　靜・エツ子 夫妻**
**（常北・小坂）**

お互いに手を取り、喜怒哀楽と共に歩んだ50年、振り返れば長い道のりでした。健康に恵まれ、この日を迎えられたことは最高の幸せです。周囲の皆様に感謝いたします。今後、健康第一に夫婦の絆を大切に残りの人生を楽しみます。

**田口　操・みつ子 夫妻**
**（常北・下古内）**

苦楽を共に50年、今後健康に留意して過ごしたいと思います。

**青木　一忠・みつゑ 夫妻**
**（桂・北方）**

山あり谷あり、苦楽を共にした50年、多くの方々に支えられ、心から感謝しております。今後健康に留意し、余生を送る考えです。

**武井　正男・律子 夫妻**
**（桂・錫高野）**

金婚式を迎えることができた50年に感謝の思いで一杯です。余生を健康で楽しく生きたいと思います。

**三村　克巳・貢 夫妻**
**（桂・錫高野）**

「人生楽ありゃ苦もあるさ」の如く、戦中戦後、千年に一度の大震災も乗り越えることができました。これもひとえに家族、地域の皆様のお陰です。ありがとう。

**加藤　隆・紀久江 夫妻**
**（桂・高根）**

周りの皆様に支えられ結婚50年、あっという間に過ぎ、今日金婚式を迎える事が出来ました。有難うございます。

# きらっと生きる 地域とともに

## 大越　功さん（上圷）

大越　功さん

大越さんの教師としてのスタートは、旧岩船中学校です。その後各地域の中学校では美術を、小学校では図工の授業を受け持ちました。

36年間の教員生活は、平成5年に退職し、その後社会教育指導員となり、又同時に圷地区公民館の館長に就任しました。

公民館活動として、木工芸教室を、15名の参加者で始めました。

作品は木彫のコースター、組立てパズルで、糸鋸で木をカットする作業は難しく、子供達は大変だったそうです。木の温もりと木とのふれあいを通して、時間をかけて完成した時には、感動をしたそうです。

城里町健康福祉課で、平成22年度まで実施の介護予防教室では、絵手紙と木工芸を指導して居りました。11月から12月にかけては新年を飾る干支づくりの準備を始めます。

高齢者の皆さんは、接着剤で形を作り、干支の動物の顔を書き、色を塗ります。

絵は心の表現、感情を豊かにすると話される大越さんの絵手紙は、優しさと、暖かさが伝わります。教室を始める前の10分間は、地元に伝わる民話又日本の情勢の移り変りを分かりやすく説明をしてくれます。

絵手紙の花は、奥様の正子さんが丹精を込めて栽培をした庭に咲く花を持って来られました。

大越さんは絵手紙教室の13名の皆さんと、地元の介護施設で、訪問絵手紙ボランティアを、5年間続けています。

上圷地区には、大越さんが代表を務める「農地、水、環境保全事業」があり、先祖からの農地、環境整備作業で、5年間の指定です。国、県、町からの助成金で実施をしています。

組立てパズル

上圷地区の住民の皆さんが休田を1反歩借り受けて、米作りをしています。

150人のメンバーで、田植から稲刈り、おだがけ、収穫と、子供達と一緒に収穫祭もします。活動の様子は、地区の係の人が、米作りだけではなく、年間を通しての活動をデジカメで撮ります。集められた記録と写真は、代表の大越さんが企画、校正、編集を手掛て「上圷地区だより」として月1回配布されます。

田んぼの側溝の泥揚げと川辺の草刈と共同作業で行って来ましたが、常北と桂の境界を流れる川「江川」では夏の夜の8時頃に源氏蛍が美しい光を放ち、飛び交う様子が見られます。これからも健康に気を付けて活動を続けて下さい。

# 交通事故―遭わない、起こさない

## ★夜道にキラリ反射材★

反射材をつけて毎日散歩を楽しむ

夜道、車を運転していて、「通行人の発見があと数秒遅かったら」と、ヒヤリとした経験がある人は多いと思います。

車のヘッドライトで人影を確認出来るのは精々数十メートル。時速4、50キロで、3、4秒の距離です。通行人が、より遠くから確認されることが事故予防に大切なことが分ります。

そこで現在、弱い光でも蛍光色で100メートル先から確認できる**反射材**の着用を町高年者クラブが勧めています。これは、県警が、薄暮時から夜間に事故が多いことから、事故防止に効果が高い**反射材**の着用を定着させたいとして、町高年者クラブ連合会の役員15名にその普及活動を委嘱したことに基づくものです。

グラウンド・ゴルフ大会で
反射材の効用を説く会長・役員

高ク連会長の横倉芳郎さんは「反射材は、高齢者だけが着用するのではなく、例えば玄関などに置き、夜間外出する家族の者がだれでも着用する習慣を付けることがより大切だ」と語っています。事故ゼロの町に向けて、この活動が実ることを願っています。

尚、9月の町グラウンドゴルフ大会で参加者全員に反射材が配られました。

# 手話を学ぶ

## ①手話って何？

皆さんは手話を使ったり見たりした事がありますか。

手話は耳の聞こえない人（聴覚障がい者）のことばであり、コミュニケーションの手段の一つとして使われます。手話は「目で見てわかる言葉（視覚言語）」なのです。

手話は少し難しいなと思うかもしれませんが、語源（手の動きの意味）を理解すれば「なるほど」と納得できるものも数多く、手話の深い知恵を見る事ができます。

今回より日常で使用する簡単な手話を学び、聴覚障がい者と健聴者が自然にコミュニケーションのできるような豊かな社会作りに役立つように紙面に載せていきたいと思います。

### 聴覚障がい者のコミュニケーション

手話の他に指文字（5指を使って50音を表す）読話（口の動きを読みとる）筆談（紙に書いて話をする）空書（空間を利用して）身ぶり、ジェスチャーなどがあります。どれを使っても組み合わせても大丈夫です。

まずは恐れず、相手と目と目を合わせてチャレンジして下さい。

### 挨拶の表し方

#### 「はじめまして」

はじめましては「初めてお会いします」という事なのでその言葉の意味を手話にしています。

①はじめて

左手の甲に右手をのせて上に上げながら人差し指を残して他の4指を折ります。即ち「1」を表現しています。

②会う

両手人差し指を左右から真ん中で合わせます。会うという手話の人差し指は人を表し、つまり「人が出合う」の意味があります。

#### 「おはよう」

おはようは「朝の挨拶」という言葉の意味を手話にしています。

①朝

右手でこぶしを作り、こめかみ辺りにあててから下ろします。朝起きる時に枕をはずす様からできました。朝の他に「起きる」という意味もあります。

②あいさつ

左右の人差し指を向かい合わせて、落り曲げます。この手話も人差し指が人を表し、おじぎをする様子を表しています。

㊟挨拶は頭を下げましょう。

### 「針金ハンガー余っていませんか？」

地域活動支援センター（つくし）では、「もっぷっぷ」を製作しており、大変好評をいただいています。針金ハンガーにアクリル毛糸を巻き付けて作るハンディモップです。好評のため、材料の針金ハンガーが不足しており、不要な針金ハンガーがありましたら、ご寄付をお願いいたします。

**連絡先**
**地域活動支援センター**
**029－288－7421**

## 社協会費と共同募金
# 感謝とお願い

今年度の社協会費の納入をいただき、ありがとうございます。

社協では、ご賛同いただきました皆様からの会費をもとに、地域福祉事業の推進を行っております。

これからも町民の皆様の福祉活動への参加をいただき、「誰もが安心して暮らせる福祉の街づくり」を実践してまいりますので、皆様のご理解ご協力をお願いします。

また、10月1日より全国一斉に赤い羽根共同募金運動が始まりました。

災害義援金とは異なり、各小中学校の福祉教育、ボランティア活動、社協広報活動、高齢者支援などの町の福祉事業に役立てられています。

皆様ひとりひとりの思いやりが、町の福祉を支えています。

ご協力をお願い致します。

赤い羽根共同募金
10月1日▶12月31日

## しろさと⑩
# 高根山大山寺

高根山大山寺は古くから「虫封じ高根山」として広く信仰されており、弘仁元年(810)弘法大師の開創と伝えられ御本尊は大日如来ということです。長禄元年(1457)に宥阿上人が大山城主義成公祈願所として中興し高根山閑心院大山寺としました。

現在は関東88ヶ所霊場第31番所に認定されており、また広い境内には四季折々に花が咲き乱れ、花の寺としても親しまれています。さらには毎日午前11時30分と夕方5時には「時の鐘」として地域の人達に重厚な響きを届けています。

# わが町のさわやか元気さん㉓

## 大津　通晃（のぶてる）さん　95歳　上圷

とても元気で95歳とは思えぬ若々しい通晃（のぶてる）さん、皆さんからは「つうこうさん」と呼ばれています。

現在は、長男の浪雄さんと2人で暮らしています。

70歳を過ぎた頃から、ゲートボールを始め、審判もしています。県大会（トヨペット杯）では2度も褒賞を受けました。若い頃は柔道をやっていたそうで、受身が役にたち、梯子から落ちても怪我（けが）をしなかったとのこと、体型も若い頃と変らないそうです。95歳でも家事一切を自分でし、食事も栄養を考えた鍋をつくり健康に気を使っているとのことでした。

若い頃は、破天荒な生き方をされたとの事ですが、お話しも面白く年齢を感じさせない「つうこうさん」でした。これからも明るく元気に楽しい人生を送って下さい。

## 関　義冨　さん　92歳　はつ子　さん　89歳　岩船

深い山々に囲まれた山あいの地に、義冨さんご夫妻の家が有ります。

別棟には息子さんのご家族が住んでいます。

常に親子電話で連絡を取り、時にはお嫁さんの手作りの惣菜が届くそうです。

結婚当時は東京に住んで居ましたが、戦後生地の岩船に戻り農業を始めました。

経験のないはつ子さんは、苦労をしたそうです。今は農業カレンダーの如く、年間の農事を把握しています。

義冨さんは高根山・大山寺の氏子総代を40年続けて居ますが、氏子さん52人の電話番号を記憶しています。

80歳の時には、東の国関東八十八ヶ所の遍路を、4年間かけて達成しました。

健康にも恵まれ、68年間一度の諍（いさ）かいもなく、穏やかな人生を過ごされたお2人の幸せが、末長く続きます事をお祈り致します。

# 城里町老人福祉センターにスタンプカードができました

カードは、老人福祉センターやまゆり荘・桂老人福祉センター共通にてご利用になれます。入館時にご提示していただくと、スタンプ1個捺印させていただきます。捺印数が10個になりましたら、老人福祉センターやまゆり荘・桂老人福祉センターどちらかの次回の入館料を無料としてご利用いただけます。有効期限は、発行日より1年間とさせていただきます。ぜひ、この機会に城里町老人福祉センターをご利用下さい。

**お問い合せ**

◆やまゆり荘
029―288―5568

◆桂老人福祉センター
029―289―3081

# 目次


●城里町子どもヘルパー事業……1
●子どもヘルパーを通して……2
●猛暑に負けず励む
―23年度地域介護ヘルパー養成講座―
●城里町常北女性会と支援センター「つくし」……3
●つくしの四季㉑
●金婚者紹介……4
●金婚者紹介……5
●きらっと生きる……6
●交通事故―遭わない、起こさない
☆夜道にキラリ反射材☆
●手話を学ぶ①手話って何？……7
●『針金ハンガー余っていませんか？』
●社協会費と共同募金 感謝とお願い
●しろさと⑩「高根山大山寺」
●わが町のさわやか元気さん㉓……8
●城里町老人福祉センターにスタンプカードができました
●目次
●編集後記


# 編集後記

黄金色に輝いていた田もきれいに刈り取られ、刈り株と稲ワラを焼いた黒い跡、そして時折背後から吹いてくる風が秋を感じさせてくれる。家の庭にある柿の木は沢山の実をつけ、重そうに枝を垂らしている。栗のイガも大きくなってきた。街道のあちこちの売り場には果物がところ狭しと並べられお客が来るのを待っている。実りの秋、味覚の秋やっぱり秋はいい。（わ）